

今月は熱傷の特集です。入院となるような広範囲熱傷では救急部や形成外科が治療の主体となることも多いと思いますが、今月の特集論文の筆頭著者はすべて皮膚科医で、熱傷治療にしっかりと取り組んでいる皮膚科医がたくさんいることを頼もしく感じました。論文を読みながら41年前に私が皮膚科に入局した当時のことを思い出したので、しばらく昔話にお付き合いください。

当時の東大皮膚科の病棟医長は、現在本誌顧問の大原國章先生でした。先生は手術を専門とする一方で熱傷治療にも積極的に取り組んでおられ、広範囲熱傷の10時間に及ぶような長時間手術がしばしば行われました。パジェットデルマトームが使える一等地の採皮は大原先生以下先輩医師が担当し、我々のような駆け出しはカミソリを持たされ、わずかに残る健常部からこまごまとした皮膚片を採取しました。採取した皮膚片は薄いのでくるくると丸まっており、そのままでは植皮に使えません。そこでソフラチュールガーゼに伸ばして貼り付けるのですが、注意しないと表と裏（角層側と真皮側）を間違えそうになります。先輩に「裏返しではダメですか」と聞いたところ、「裏返しで着くはずがないだろう」とあきれられました。そもそも植皮片の組織構築を知らず、その生着メカニズムもわかっていないのでこのような質問が出たわけですが、今考えれば我ながらひどい質問をしたものです。

当直の日の夕方、開業している先輩の先生から電話があり「今から救急車で子どもの広範囲熱傷を送るのでよろしく頼む」といわれました。ご存じの通り当時は卒業即入局で、半年前までは学生であった身ですので、広範囲熱傷の救急対応などしたことがありません。医師生活最初の大ピンチでした。こんな時に頼れるのは大原先生だけです。祈る思いでご自宅に電話したところ、幸いご在宅で、すぐに行くと言ってくださいました。患者が到着してみるとまだ小さな幼児で、母親がいうには風呂でよく温度を確認せずに熱いシャワーをかけてしまったとのことでした。背中から臀部全体にⅡ度熱傷がありましたが、幸いかなり浅いものでした。到着した大原先生は軟膏処置の指示を出すとともにBaxter法の計算を行い、「朝まで1時間あたり〇〇mlの補液を行い、××mlの尿量を確保するように」とご指示くださいました。すべての処置と指示を終え、帰っていく大原先生の姿が神様のように見えました。当時は電動の輸液ポンプは皮膚科病棟にはなかったので、滴下速度を時計で測って手で調整し、1時間ごとに輸液量と尿量を確認しました。当然ながらほとんど眠れませんでした。無事に朝を迎えたときには心底ほっとしました。

受傷機転についての母親の話には不審な点があり、今考えると虐待案件だったのかもしれませんが、創部の経過は良好で1週間ほどで無事に退院していきました。

(相馬良直)

— 顧 問 —

大原國章 大塚藤男

— 編集委員 —

土田哲也 五十嵐敦之 相馬良直 林 伸和 佐伯秀久

「皮膚科の臨床」第66巻 第8号 7月号

2024年7月1日発行（毎月1回1日発行）

定価 3,300 円（本体 3,000 円＋税 10%）

年間購読料金

定価 50,160 円（本体 45,600 円＋税 10%）

〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

TEL 03(3811) 7165〔編集室直通〕

TEL 03(3811) 7184〔営業部直通〕

FAX 03(3813) 0288

ホームページ www.kanehara-shuppan.co.jp

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 TEL 03(3637)0005

広告申込先 (株)文京メディカル TEL 03(3817)8036

- ・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。